

## とちぎ夢大地応援団（11月5日実施）

～那須烏山市国見地区「棚田隣接山林の草刈り・交流会」～

那須烏山市の東南、八溝山系の山並みが連なり、眼下に那珂川を望む国見地区で、11月5日、棚田の畦畔及び隣接する山林の草刈りを実施しました。国見地区は、本州北限のみかん産地として知られ、また全国の棚田百選にも選定されています。しかし、近年過疎化と高齢化が進んでおり、地区を取り巻く生活環境は年々厳しくなっています。このような中で、現在9戸の世帯が観光みかん園や野菜種子の受託生産、棚田の保全管理を、集落ぐるみで行っています。

当地区での夢大地応援団活動は、7年目に入りました。今年も、NPO法人ナルクとちぎを始め、宇都宮大学、県内各地の応援団員など24名が駆けつけ、加えて大木須むらづくり推進委員会や小木須自治会の皆さん、そして那須烏山市を始めとする関係指導機関、地元国見自治会が加わり、総勢52名の参加がありました。

作業は午前9時30分から一斉に始まり、棚田の畦畔雑草、隣接する山林の雑木を刈り取りました。隣接する山林は急斜面で、足場が悪いにもかかわらず、参加者の多くはこの場所での作業に慣れており、お陰で作業は順調に進みました。昼食時には、地元女性の皆さんが調理したすいとんが振る舞われ、その後、交流会が行われました。

なお、この日の参加者には中山間夢通貨（地域通貨）が配られたことから、活動終了後には、この通貨を使って各自みかん狩りを楽しんでいました。



棚田を見下ろし、みかん園をバックに元気いっぱいの参加者





日本の棚田百選「国見の棚田」



参加者が続々駆けつける



小林自治会長のあいさつ



大谷那須烏山市長歓迎のごあいさつ



整列した参加者



県・関係機関代表小川参事あいさつ





一斉に作業開始



安全を確認しながら急斜面での作業





休憩タイム



昼食タイム



おいしいすいとんに大満足



交流会での参加者の発表



すいとんを調理してくれた地元女性の皆さん



地域通貨でみかん狩りを楽しむ参加者